

シネマ203

北ぶらくり丁の小さな映画館

たまにはちょっと、映画でも

北ぶらくり丁の小さな映画館で、冒険がはじまりました。
アパートの扉の奥の一室で、大きなスクリーンと、包み込むような音響が
好奇心旺盛なあなたをお待ちしています。

ドキドキするような世界の映画との出会いがある。
ここは、異国への入口／異郷への出口。

和歌山の皆さま、月に2時間の小旅行へようこそ。

🎫 入場料金 (基本料金)

一般：1,700円 / 大專：1,500円 / 小中高：1,000円

- ※ 当日入口にて現金のみ。各回上映10分前開場。全席自由席。受付順にご入場ください。
- ※ 特集上映など各種割引料金の設定あり。詳しくはHPやチラシにて。

最新スケジュール →



📍 アクセス [北ぶらくり丁会館 2F] 本町公園より徒歩1分
北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い通りに
[北ぶらくり丁会館]の鉄看板あり。奥の赤い階段を2階へ。

【駅から徒歩/バス】
和歌山市駅より徒歩10分/バス1~2分(800m)
和歌山駅より徒歩25分/バス5~9分(2km)

北ぶらくり丁会館 203号室

シネマ203

cinema 203 1月の上映



今日も世界中の映画館で



和歌山市中ノ店北ノ丁22
北ぶらくり丁会館 203号室
090-8172-7074

cinema203.com



🎬 カウリスマキから愛を込めて…今日も、世界中の映画館で。<フィンランド>

1年前の映画『枯れ葉』で和歌山にもあたたかい正月を運んでくれたアキ・カウリスマキ監督が、地元カルッキラに初めての映画館をオープンしました。人口9,000人の鉄鋼の町。深い森と湖の中で打ち捨てられた鋳物工場に、椅子と取り付けスクリーンを張って、ビールが飲めるバーに電光看板を灯す……。住人たちのワクワクした気持ちが和歌山に沁みるドキュメンタリーです。



『キノ・ライカ 小さな町の映画館』

監督・脚本・撮影・編集：ヴェリコ・ヴィダク
 出演：アキ・カウリスマキ、ミカ・ラッティ（共同経営者）、カルッキラの住人たち、ジム・ジャームッシュ、マウステテュット（『枯れ葉』出演）ほか
 配給：ユーロスペース（2023年/フランス・フィンランド合作/81分）

🎬 名門 ECM レコードからデビューした田中鮎美さんを想う <ノルウェー>

キース・ジャレット、チック・コリア、バット・メセニー…数々の名盤を生み出してきた ECM レコード=マンフレート・アイヒャー。妥協なき音づくりで“静寂の次に美しい音楽”を追求する名門レーベルの秘密に迫る究極の体験を。和歌山が誇る ECM アーティスト、田中鮎美さんが自分の音楽を掴んだノルウェーという国に思いを馳せながら、その美しさに酔いしれてください。



『ECM レコード ~サウンドズ&サイレンス~』

監督：ペーター・グイヤー+ノルベルト・ヴィドメール
 出演：マンフレート・アイヒャー、アルヴォ・ペルト、アヌアル・ブラヒム、エレニ・カラインドルー ほか
 配給：EASTWORLD ENTERTAINMENT（2009年/スイス映画/87分）

🎬 <再発見“Seijun Suzuki”> 第三弾は高橋英樹！ 正月早々、喧嘩・喧嘩・喧嘩!!

鈴木清順監督<再発見>の締めくくりは、青春痛快アクションで映画初めとまいます！キテレッズで自由自在な“Seijun Suzuki”の真骨頂。渡哲也、戸冢錠のお次は高橋英樹が主演です！喧嘩修行が人生修行、そして初恋はせつなく苦しいもの…古き良き時代の旧制中学生”喧嘩キロク”が大暴れる爽快アクション大作で、今年も良い年に!!



『けんかえれじい』

監督：鈴木清順 | 脚本：新藤兼人 | 音楽：山本直純
 主題歌：「けんかえれじい」
 作詩/滝田順 作曲/楠井景久 歌/日活ボーカルグループ
 出演：高橋英樹、浅野順子、川津祐介 ほか
 配給：日活（1966年/日本映画/86分）

🎬 “暮らしの中にある もうひとつの世界の入り口”を探す、2ヶ月の美しい旅。

『SELF AND OTHERS』が見たいなあ……迷いに迷って、やっぱり全6作品を上映させてもらうことにしました。映画の自由と、映画を見ることの可能性を大きく広げてくれる佐藤真監督の世界。スクリーンに映し出されないものの力に圧倒されながら、この1年のことを考えたい。

見たことのないドキュメンタリー、見たことのない”暮らしの思想”を、2ヶ月かけてたっぷりご堪能ください。

『暮らしの思想 佐藤真 RETROSPECTIVE』RETROSPECTIVE 配給：Alfabet



①『阿賀に生きる』(1992)
 ②『まひるのほし』(1998)
 ③『SELF AND OTHERS』(2000)

④『花子』(2001)
 ⑤『阿賀の記憶』(2004)
 ⑥『エドワード・サイード OUT OF PLACE』(2005)








🎬 なんでもアリ！な映画の海で、自分だけの“親愛なる映画”と出会うとき。

3月に、和歌山でもぜひとも見たい映画があります。映画はどこまでも自由で、映画館はそれを見られる場所であってほしい。1月はそんな思いに駆られて、カウリスマキ監督の映画館づくり、ECMレコードの音楽づくりを覗きつつ、佐藤真監督の「映画で考える」軌跡を辿る2ヶ月をスタートします。2月には、イタリアからナンニ・モレッティ監督の「映画制作の現場」と、フランスからはアルノー・デプレション監督の「映画館の旅」（203と本町文化堂の皆さん必見！）をお届け。

南米チリから、苦しい歴史を生き抜いた人々の小さく強い暮らしを垣間見るドキュメンタリーを2本。昭和40年代の日本から、会社の方針の枠内でどこまで行けるか挑戦していた映画監督と仲間たちの信念を3本連続で。その志が込み込んでいるのではと感じる監督の2024年作を2本。そして、日本中のミニシアターに若者が殺到していると話題の新作を2週間。

そんなシネマ203の冒険は、2025年へとなだれ込んでいるのですが、きっかけは、三宅唱監督のいろいろな文章を読んだことでした。彼の新作『夜明けのすべて』を昨年ベスト10に入れた方も多いのでは。（北ぶらのことより）



__ and more

🎬 2/1(土)は本町文化堂 [音楽と無声映画 Vol.5]。『サンライズ』(1927年、F.W.ムルナウ監督、米映画)降臨！